

## JBL4350A の再構成(1) —ダブルウーファー駆動アンプの交換—

### 1. 始めに

JBL4350A については、[JBL4350A の音質向上\(9\)](#)でパワーリベラメンテの効果を確認して以降、深く追求していません。その後、下記のような一部アンプの不調がありましたので、入れ替えを行うこととしました。

### 2. JBL4350A の試聴方法

JBL4350A の駆動アンプは、ダブルウーファーが Heath Kit の W6M (KT88pp)、ミッドバスからツイーターまでが特注の 45pp、スーパーツイーターが PILOTONE の 6V6pp アンプです。W6M (KT88pp) の片方のアンプの電源が入らなくなりましたので、第 3 リスニングルームから Heath Kit の W5M (KT66pp) を持ち帰り、ST 氏の支援をお願いして入れ替えをすることにしました。

W6M (KT88pp)、W5M (KT66pp) とともにピアレスのトランス付きの重量級アンプですので力仕事になり、ST 氏の支援を依頼した次第です。この機会に 45pp と FAL C90EXW 駆動の 300B シングルアンプの位置も変更しました。



なお、JBL4350A への結線は、P&G フェーダーから XLR→RCA 変換プラグを経由して、アンバランスケーブルでアキュフェーズのチャンネルデバイダーF-15に入力するようにしました。



F-15 へ

### 3. JBL4350A の試聴結果

入れ替え後、LP-12 からのアナログ再生、Brooklyn DAC+の USB 入力、Brooklyn DAC+の DA-3000 からの SDIF 入力、Brooklyn DAC+の LINE 入力などの動作テストを行わない、無事再生可能であることを確認できました。

アンプの交換に伴うチャンネルデバイダーのレベルの再調整作業が残っていますが、JBL のホーン特有の音離れの良さは変わっていません。

### 4. まとめ

JBL4350A の駆動アンプの入れ替えが完了しました。アンプの交換に伴うチャンネルデバイダーのレベルの再調整などを行い、ZANDEN Model120 によるアナログ再生などを行っていきます。

以上